

「失敗しない金属床の部分床義歯を日常化するために」

欠損補綴においてインプラントが増えたとはいえ、全身疾患や金銭的な問題から可撤式の補綴しか選択肢のない患者は、依然多く存在します。

しかし、その中でも金属床については、結果への懸念から積極的になれないことが多いのではないのでしょうか？

私自身、長年悩み、試行錯誤を重ねてきましたが、現在の手法に辿り着き、それまでとは全く違う結果を出せるようになりました。

患者への説明方法、治療の術式、歯科技工士やスタッフとの連携など一連のシステムが構築できれば、金属床の部分床義歯の臨床は身近になり、診療室を明るくしてくれると感じています。

当院での金属床の臨床システムのポイントについてお話しします。